

日本看護研究学会中国・四国地方会 ニュース・レター No. 13

2005.9.

日本看護研究学会中国・四国地方会事務局
〒700-8558岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学医学部保健学科内

第19回学術集会 in 愛媛

- 大会テーマ 看護実践におけるエビデンスの確立をめざして
- 日時 平成18年3月19日(日)



運営委員長挨拶 深井喜代子(岡山大学医学部保健学科)

日本看護研究学会の地方会として、中国・四国地方会が近畿・北陸地方会と分離・独立して2年半、会則を改正し、新たなスタートを切ってから早1年半が過ぎようとしています。この間に、第17回(於鳥取)、第18回(於島根)と着実に、そして精力的に学術活動を継続し、今日に至っています。これら独立後の学術集会は、図らずも2年続きで大雪の中での開催となりましたが、多くの参加者で盛況を博したことは皆さんの記憶にも新しいことでしょう。

さて、このように記憶に残る学術集会でスタートした新体制の中国・四国地方会ですが、平成17年4月現在の会員数は731名を数えます。そして、学会を開催するたびに会員が急増するという傾向は分離・独立した現在もなお続いています。これはこの学会が看護の実

践・教育・研究を探究する、開かれた学会である所以でしょう。そして、さらに、私どもの地方会活動に、この地域で看護科学に携わる多くの人々が賛同し、期待を寄せてくださっている証拠ではないでしょうか。集うに近く、同じような気候・風土に住む会員同志が創る学術活動からは、柔軟で新しい発想や発見が生まれやすいという大きなメリットがあると思います。

運営委員会は、会員の皆さんの活発な研究活動を支える存在として努力します。そして、会員の皆さんは、この地方会から看護学の新しい風を起こすべく、ご活躍くださいますようお願い致します。

目次:

運営委員長挨拶	1
平成16年度事業報告	2
平成17年度事業計画	2
第18回学術集会(in島根)報告	3
第19回学術集会(ご案内)	3
委員会便り 学術委員会 広報委員会	4
事務局より	4



平成16年度事業報告

1. 第18回学術集会開催

実行委員長:岡崎美智子氏(島根大学医学部看護学科)

日時:平成17年3月13日(日)

場所:島根大学医学部看護学科

テーマ:臨床看護実践を支える看護学

一般演題:29題、参加者:130名

2. 平成16年度総会開催

日時:平成17年3月13日(日)

場所:島根大学医学部看護学科 第18回学術集会開催時

3. ニュースレターNo.12の発行

4. 運営委員会報告

第1回運営委員会会議(平成16年7月26日:大宮)

①運営委員31名の役割決定(新体制)

事務局移管:岡山大学医学部保健学科内

委員会:学術委員会

広報委員会

②第19回学術集会実行委員長の決定

片岡万里氏(高知大学医学部看護学科)

第2回運営委員会会議(平成17年3月12日:島根大学医学部看護学科)

①平成16年度事業活動、会計報告、平成17年度事業案等の検討

②事情により第19回学術集会実行委員長河野保子氏(愛媛大)に変更

5. 委員会報告

学術委員会:学術集会に関する計画・支援、研究活動推進

教育・研究の質の向上、看護活動に関する情報交換の支援

広報委員会:ニュースレター発行計画

地方会ホームページ開設について検討中



平成17年度事業計画

1. 第19回学術集会開催

実行委員長:河野保子氏(愛媛大学医学部看護学科)

場所:愛媛大学医学部

日時:平成18年3月開催予定

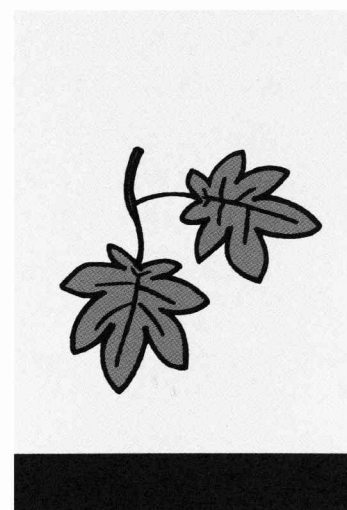
2. 平成17年度総会開催

第19回学術集会開催時(愛媛大学医学部看護学科)

3. ニュースレターNo.13発行

編集:広報委員会、発行:事務局

4. 地方会ホームページの開設



第18回学術集会(in島根)「臨床実践を支える看護学」



運営委員の役割を終えて

島根大学医学部看護学科 小倉之子

島根県出雲市で学術集会を開催するにあたり、当初3つのデメリットがありました。

1.中国・四国地区の中では、一番会員数の少ない県である。

2.開催地の出雲市への交通として、山陽・四国方面から来られる方は、岡山駅で1時間に1本しかない特急に乗り換えて約3時間かかることや、島根県は東西に長く位置し、(同じ県内でも出雲市は東部に属しているため)島根県西部の方でも2、3時間かかり良いとはいえない立地条件である。

3.冬の山陰は3月とは言え独特の強風がみられ、

寒い所が苦手な方には嫌われがちである。

そこで実行委員長の岡崎美智子先生をはじめ運営委員メンバーは、少しでも多くの方に来ていただけるように努めることをモットーに学術集会の企画に取り組みました。その中でも準備委員会を少し早めの約1年前よりスタートしたことは、企画内容を充分検討する時間が確保でき、当日の開催に大きな影響を与えたと思います。学会当日はあいにくの雪景色でしたが、私達が予想していたよりも多くの方々に参加して頂く事ができ大変うれしく思います。ご参加頂いた方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

第19回学術集会について(ご案内)

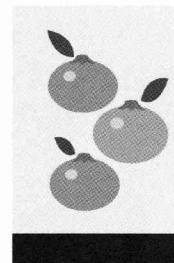
第19回学術集会 in 愛媛

●大会テーマ 看護実践におけるエビデンスの確立をめざして

●日時 平成18年3月19日(日) 9:00~16:30

●会場 愛媛大学医学部看護学科棟

●参加費 会員4000円 非会員5000円



●プログラム

◆特別講演「ケアの根拠をどう考えるか」

菱沼典子 先生(聖路加看護大学看護学部看護学科教授)

◆交流会

*テーマ1「欧米のエビデンスは日本のエビデンスと考えてよいのか？」

—院内感染に関する調査研究から—

牧本清子 先生(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻統合保健看護科学分野教授)

*テーマ2「生理学的反応を指標とした看護技術の評価—自律神経機能を測る—」

佐伯由香 先生(福岡県立大学看護学部看護学科教授)

*テーマ3「3つの質的データ収集方法の統合(トライアングレーション)と理論的裏づけの過程—高次脳機能障害者の生活行動再獲得支援プログラムの開発過程から—」

中西純子 先生(愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科教授)

◆特別セミナー「学会における効果的なプレゼンテーション」

◆一般演題(口演・示説)

演題申し込み: 9月26日~10月31日

問い合わせ先: 愛媛大学医学部看護学科 河野保子研究室内

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel&Fax 089-960-5407

e-mail: hisa@m.ehime-u.ac.jp

HP: <http://www.m.ehime-u.ac.jp/school/nurse/gakkai/kangoken19/>



委員会便り

学術委員会

学術委員会は各県からひとり以上の運営委員を出して、19名(2005年4月現在)で構成されています。学術委員会では、地方会の研究活動の推進、学術集会開催地の検討に取り組んでいます。研究活動の推進では、地方会学術集会において「効果的な学会発表・プレゼンテーションの方法―(案)」を企画しています。また、学術集会の開催地は第1に立候補制をとり、立候補がない場合、順番制で進めたいと考えています。現在、委員会の開催は不定期ですが、研究活動に関することは電子メールによる意見交換を実施しています。中国・四国地方会の教育・研究開発を推進するご意見、ご要望などがありましたら、是非ご連絡下さい。(学術委員長 谷垣)

広報委員会

広報委員は吾郷(島根県立看護短大)、小倉(島根大)、大羽(県立広島病院)、深田(鳥取大)の4名です。

今年度から広報委員会でニュースレターの編集を行うことになりました。会員の皆様へ中国・四国地方会の活動をお伝えし、活動に対するご意見が頂けるような内容となるように委員で協力して取り組みたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

また、地方会のホームページの開設準備中です。今年度中には皆様にご覧いただけるようにしたいと思います。(広報委員長 深田)

事務局

長い間、四国にあった事務局が海を渡って岡山に移管されてほぼ1年になろうとしています。この間、地方会学術集会や総会などの主要な行事をひととおり終えました。これまでは世話人会などに一会員として出席する立場でしたが、主催側になると些細なことと思えるようなことでも結構大変なことがわかりました。前事務局の中西先生、本当にお疲れ様、そしてありがとうございました。

新事務局は今は業務に漏れがないようにすることで一杯ですが、今後は微力ながら会員一人一人の顔がみえるような地方会にできたらと考えています。年度末の地方会学術集会は全国学会と少々異なりあたたかい雰囲気があります。そこでお会いできることを楽しみにしています。(岡山大学 池田)



発行：日本看護研究学会中国・四国地方会事務局

〒700-8558岡山市鹿田町2-5-1 岡山大学医学部保健学科内

Tel: 086-235-6857

発行責任者 日本看護研究学会中国・四国地方会運営委員長 深井喜代子

編集責任者 広報委員長 深田美香

